

3 月 期

〈出典一覧〉

国語 藤田正勝 『日本文化をよむ 5つのキーワード』

国語 保坂和志 『世界を肯定する哲学』

岩波書店

筑摩書房

第一問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

長い人間の歴史をふり返ったとき、とくに近代以前の厳しい環境においては、たが食を確保し、子孫をもうけ、生をつないでいくとどうも自体がきわめて困難な営みであったであろうことは、容易に想像することができる。しかし人間はそのような状況のなかでも、ただ生きることをめざしてはならず、たとえば自分の周りにある自然の美しさに目を向け、それから受けた感動を詩や歌で表現したり、あるいは親しい者、愛する者の死に接して、人のいのちのはかなさを思い、生きるこの意味について考えたりしてきた。あるいは人生や社会のなかでさまざまな苦難に出会ったり、矛盾を [X] のあたりにしたときに、心の安寧を得る道を探ったり、あるべき社会のあり方について思索を重ねたりしてきた。

そのような営みを、大きく文化という言葉でひとくりにすることができるとは、それによってわたしたちはわたしたちの生活を豊かなものにしてきた。文学や芸術、宗教や哲学という営みがなければ、わたしたちの生はきわめて貧しいものになっていただろがいない。

文化は、環境などさまざまな条件のもとで、そして長い歴史のなかで作られられたものであり、それぞれに独自の内容をもつ。それぞれの文化はそれのなかで生きる人々のものや価値観に結びついている。そのためわたしたちは、異なった文化に出会ったとき、しばしばその違いに驚かされることがある。たとえば外国に出かけたときに、ある種類の肉を絶対に口にしない人や、外出するとき必ず頭にかぶりのものをする人に出会うが、その厳格な意志にはいつも驚かされる。

ふり返ってみれば、明治の初め、西洋文化に出会ったときの人々の驚きはきわめて大きなものであったと考えられる。産業や軍事に関する技術、議会や学校、郵便などの制度、洋服や髪型といった風俗など、すべてのものが驚きの対象であったにちがいない。福沢諭吉は幕末から明治の初めにかけて刊行した『西洋事情』の初編の冒頭で、文明の政治について論じ、それに求められる第一の要件として「自主任意」を挙げた。Henry Facionという言葉を福沢はこのように訳したのであるが、それを、国法が寛か

で人を束縛しないこと、また人が貴賤の区別なく、みずからの意思に従って職業に従事し、みずからの才能や力を發揮することと説明している。『西洋事情』の冒頭で福沢が「自由」について論じたことは、福沢がそこに日本の政治や社会と西洋のそれとのあいだの最も大きな違いを見ていたことを示している。日本の近代の歴史は、この明治の人々が抱いた驚きを消化し、自己のうちに内化していくプロセスであったと見てもよいかもしれない。

文化の出会いがもつ意味は、何より、わたしたちを、自己自身の文化の枠組みのなかで見えないもの、つまり異なったものの見方や世界観に目を向けさせるという点にある。わたしたちはそれに驚いたり、あるいはそれによって自分の世界観を揺さぶられたりすることを通して、みずからを顧みる目と、他者に対する共感の心を養ってきた。そのことを通じてわたしたちはわたしたちの文化をいつそう豊かなものにするとともに、他者との共存の基盤を形成してきたのである。他者との出会いこそが、わたしたちがわたしたちの文化を豊かにする源泉でもあったと言うことができる。

しかし、いま、そのようなわたしたちが長い時間をかけて作りあげてきた営みが大きな危機に直面している。それは、いま世界全体を覆っているグローバル化の波と深く関わっている。グローバル化は多くの利便をもたらしたが、しかし他方で、わたしたちの社会のなかに多くの問題を引き起こしつつある。

人々の関心がただ経済的な利益を追求することのみ向けられるようになったことが、いちばん大きな問題であると言えるかもしれない。そして、なによりかまわない利益追求によって、さまざまな場所で格差が生まれ、対立や軋轢が生まれている。それは先進国でも途上国でも変わらない。民族や宗教、肌の色や性別、政治的な見解など、さまざまな観点から異質なものを発見し、その「他者」を排拒すること、自分自身のアイデンティティや存在意義を確認しようとする風潮が生まれている。

このような状況のなかで、文化と文化、民族と民族、宗教と宗教のあいだの溝がいつそう深くなる方向へと動き始めている。長い時間をかけて作りあげられてきた文化や、他者との共存の営みに亀裂が入ろうとしている。ここで踏みとどまらなければならぬという思いが強くなっている。

そうした状況にすぐに有効性を発揮する対処法があるわけではない。それぞれがそれぞれの歴史や文化を担っていることを認め、尊重しあうことから出発する以外に道はない。そういう姿勢をもちながら互いに対話することが、いま改めて求められているのではないだろうか。人類はこれまで異質なものに触れ、そこから刺激を受けることによってみずからの文化を、そしてみずからの生を豊かにしてきた。異なった文化や考え方は、お互いがお互いを豊かにしうる源泉なのである。その原点にいま立ち戻る必要を強く感じている。

(中略)

対話を意義のあるものにするためには、まず明確な「自画像」を描かなければならない。対話はその目を他者に向けては成立しない。みずから何であるかを把握した上で始めて対話が成り立つ。その基礎作業を行いたくと思つた次第である。そのためにもまず問題になるのは、古代から現代にいたるまでの日本の詩歌や芸術、宗教の長い歴史のどこに注目するのか、という点であろう。もしそこに何かある一貫したものを発見することができれば、それが大きな手がかりになる。そのように考えたときに頭をよさるのは、松尾芭蕉の「笈の小文」のなかの次の言葉である。

西行の [A] における、宗祇の [B] における、雪舟の絵における、利休が茶における、其の貫連する物は一なり。しかも風雅におけるもの、造化にしたがひて四時を友とす。見る処花にあらずといふ事なし。おもふ所月にあらずといふ事なし。像花にあらずる時は夷狄にひとし。心花にあらずる時は鳥獸に類す。夷狄を出で、鳥獸を離れて、造化にしたがひ、造化にかへれとなり。

芭蕉において「風雅」は、まず何より [C] を、そして詩歌を意味する言葉であったが、それにどまらず、四時、つまり春夏秋冬、そしてその変化に応じて移り変わっていく万象（造化）にとらまらるることにあろうとすること、そうした生き方、またそこにある

美、さらにそれを解する心、そこから生みだされる詩歌の本質をも意味する言葉であった。芭蕉はこのような生き方や美意識を、西行の **A** の道にも、宗祇の **B** の道にも、雪舟の絵画の道にも、また利休の茶の精神のなかにも見いだしたのである。移り変わる自然の変化にみずから委ねるとき、見えるものすべてが花となり、思い浮かべるものすべてが月となる。もし見るものが花ではなく、思い浮かべるものが月でないとすれば、それはまだ詩歌の心を知らない野蠻な人であることを示している。そのような状態を抜けだし、造化とともに生きることによって、はじめて人は人でありうるし、詩歌の心を理解することができる、というのが芭蕉の確信であったと言えるであろう。

(藤田正勝『日本文化をよむ 5つのキーワード』)

問 1 a・b の読みをひらがなで記しなさい。解答番号は **a 1 b 2**

- 1 安宰 a 2 軋轢 b

問 2 空欄 **X** にはいる語と、次のことわざの空欄 **□** にはいる語が一致するものをも一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **3**

- A 忠言 **□** に逆らう I 生き馬の **□** を抜く
- E **□** に唾をつける O **□** 綿で首を絞める
- ウ 鬼の居ぬ **□** に洗濯

問 3 ① 日本の政治や社会と西洋のそれとのあいだのもっとも大きな違いとあるが、福沢諭吉が見ていた、政治社会における日本と西洋の「もっとも大きな違い」を、四十五字以内で具体的に説明しなさい。解答番号は **4**

問 4 ② 驚きを消化し、自己のうちに内化していくプロセスとあるが、これはどのような意味か、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **5**

- A 最初は西洋の先進性に対し圧倒されたが、後にはその先進性に馴れ親しみ、換骨奪胎して模倣していく過程
- I 西洋とのあまりの違いに、日本人が思わす表に出してしまった驚きや恐れを、内側におさえ込んでいく過程
- ウ 驚くほどに優れた異文化をどうにか自国に取り入れようと、自国の内なる文化的なものを洗い出していく過程
- E 双方の文化が大きな違いをもつことに驚いたものの、驚きをやり過こして世界の多様性を受け入れていく過程
- O 文化的な差異に対し大いに驚いていたが、やがてそれを十分に理解し、自己の知見として会得していく過程

問 5 ③ 他者との出会いこそが、わたしたちがわたしたちの文化を豊かにする源泉であったとあるが、それはなぜか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **6**

- A 文化の異なる人々と交渉することで、自分自身を反省し、他者への理解と尊重の心を養うことになるから
- I 自分たちだけでは全く進歩がないので、文化的な刺激を受けるためにも、他者は必ず必要であるから
- ウ 異文化との遭遇によって、自国の文化を改めて顧み、新たな価値観や世界観を形成することができるから
- E わたしたち自身が自国の文化を豊潤なものにするには、他国の文化との相違点を知ることが不可欠であるから
- O 異なるものの見方や世界観に触れたショックによって、わたしたちは自国の文化を発展させてゆくから

問 6 ④ 「他者」とあるが、この文脈における意味として、該当しないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **7**

- A 自分が属しているものとは別の集団
- I 自分とは関わりのない者
- ウ 自分が向き合っている相手
- E 自分以外のすべてのもの
- O 自分とは相容れないものこと

問 7 空欄 **A** から **C** にはいる語として、もっとも適切なものをそれぞれ次の中から選び、その記号をマークしなさい。ただし、一つの記号は一度しか使わないこととする。解答番号は **A 8 B 9 C 10**

- A 和歌 I 俳諧 U 漢詩 E 連歌 O 川柳

問 8 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は **11 15**

- 11 ある社会で生きる人々が、独自のものの見方や価値観をもって、環境などのさまざまな困難にもめげずに、長い時間をかけて練り上げてきたものが文化である
- 12 福沢諭吉が『西洋事情』初編を翻訳したことにより、「文明の政治」に求められる要件として、「自主任意」という概念が日本にもたらされた
- 13 人々の関心が経済的な利益追求に集中していることが、世界各所での格差や対立を生み、文化・民族・宗教などにおける隔たりを大きくしている
- 14 現今の世界状況に即効性のある対処法はないが、各人が各々の歴史や文化の担い手であることを承認し尊重しあうことが、唯一の早道である
- 15 芭蕉にとって「風雅」とは、単に詩歌を意味する言葉にとどまらず、生き方や美意識、そこに生まれる詩歌の本質までも意味するものだった

第二問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語については、注を参照しなさい。

記憶には、(宣言的記憶)と(非宣言的記憶)という区別の仕方がある。
(宣言的記憶)とは、テレビとはどういふものであるかという一般的な定義とほぼ同義の(意味記憶)と、「昨日私は映画を観に行った」というような個人史に關わる(エピソード記憶)の二つを指し、(非宣言的記憶)とは自伝的の乗り方、ピアノを弾くときの指使い、熟練工の技能といった、言葉で述べても伝えきれず、またその説明を一度聞いたからといってすぐには実行できない、行為としての記憶を指している。

これらの(非宣言的記憶)を(技の記憶)と呼び、(非宣言的記憶)にはほかに(条件反射)も含まれる。また、もう一つ重要なものとして、視界の片隅などにあつて意識してはいなかったのにその後の感情や判断に影響を与える、フライング記憶という記憶の形態がある。(Cue)と呼び水する。*サプリミナル効果などがこれのわかりやすい実例で、この記憶は入力時に意識されていなくても当然言葉も介在せず、(非宣言的記憶)の範疇に入れられる。(中略)このように、(記憶)とは言葉でかなり明快に伝達することが可能なものだけを指すのではない。このことは、(記憶)さらには(人間)を考へるときにとても重要なことだ。

たとへば青森の三内丸山古墳が見つけられたときに、現代の人間は縄文人の高度な土木建築の技術に驚いた。当時の人たちは直径一メートルもあるような大木を組んで、地上十五メートルにもなるような高樓を造り上げていた。彼らは図面を引ずらずにそういう建築物を建てた。もちろん釘や工具のような金属製の止め具なんか使っていない。縄文人の工法を再現しようとしたら、現代では大変な知識と技術が必要になるが、当然のことながら彼らはそれ以前の技術の自然な集積として高樓を建てた。彼らは建材として使う木が長年のあいだにその地域の気候とともにどのように変化するかを知っていたらうし、木をどの角度で組み合わせるのが、番耐久性があるのかも知っていたらう。どの部分なら切り込みを入れても強度が損なわれないかということも知っていたらう。

それらの技術や知識は当然、一世代で獲得されたわけではなくて、何世代にもわたつて醸成されていった。それらの技術や知識は言葉で伝えられるのではなくて、その場に居合わせるこゝによつて伝えられて、少しずつ更新されていった。「徒弟制」として今でも残っている伝達の方法だ。現在のようないまぬアル化全盛時代には、徒弟制は非常に効率が悪いとされているけれど、マニュアルによつて伝えられる技術はたか知れていて、「その場に居合わせる」という方法によつてしか伝えられない部分を持つのが、(非宣言的記憶)の特徴で、徒弟制は無文字社会の長い歴史の中で、合理的な伝達方法だったと私は思う。そういう技術の系譜に(たぶん)属する、現存するかぎりでの一番古い建造物が法隆寺の五重塔だ。

無文字社会とは(技の記憶)の壮大な体系を持つた社会だつたのではないらうか。その社会では技術・知識・記憶は行為者と対象との密接な関係の中でだけ立ち現われてくるようなもので、建築する行為と切り離した『技法の知識』というよなものはない。歡喜は誰の所有物でもなく、ただその場で起こる。

無文字社会における技術・知識とは、技術者の所有物ではなく、技術者が対象に働きかけるという行為の中にだけあつた。技術者が行為するときには必ず後継者がそれを見ていたのだから、技術を行為と切り離して言葉で伝えるようなことは思ひもしなかつた。チャンパンジーが石を使って木の実を割る映像を見ていて、子どものチャンパンジーは人がやっている横に並んで、見よう見まねでその技術を習得していく。子どものチャンパンジーはまず木の実を舌になる石の上に載せて叩くことを真似るが、その段階では台の石の表面は平らでなく、叩く物も石とはかきらない。子どものチャンパンジーは「木の実を、台に載せよ(石か何かを)手で握り

叩く」という目で見たプロセスだけを頼りに、台の大きさ・形・硬さ、叩く物の大きさ・形・硬さを自分の判断で選出してゆく。この「見よう見まね」という習得の方法は、チャンパンジー以来人間の中に強固に組み込まれた、かなり安定したメカニズムのものではないらうか。

しかし文字が発明されたことで、それらの知識・技術が対象化(言語化)して伝達される可能性が生まれた。つまり、人間と世界との関係が変わつた。

文字とは、コンピュータと同じように独立に体系を持った厳然たる「テクノロジー」であつて、行為の中でしか生成しなかつたはずの技術や知識を、そこから切り離して保存・伝達するという意識を人間の中に芽生えさせる。この変化を、人間がどれだけ主体的に選び取つたかどうかというこゝは問ひようのない問題だ。テクノロジーとの関わりにおいては、「主体的」か「受動的」かの二分法は意味がない。

そのようにして、無文字社会から文字社会へと移行する過程で、技術や知識(それらの伝達も含めて)の大規模な喪失があつたのだと思ふ。またそして、その移行と歩調を合わせて、技術や知識だけでなく(記憶)といふもの全般の理解のされ方も変わり、言語化の難しい(非宣言的記憶)に対して言語化が容易な(宣言的記憶)たよれば系図や「日本書紀」のように書かれた歴史のよなものも、社会の中せ正当性を与えられるようになったのだと思ふ。「そしてまた、(技の記憶)にも「秘伝書」のような文字による伝達の形態が生まれたらう……」

注
*トレイスする………跡をとる。
*サプリミナル効果………潜在意識に働きかけることで現れると考へられている効果。

- 問1 a・bの読みをひらがなで記しなさい。解答番号は a 16 b 17
16 範疇 a 17 損なわれ
問2 ① 造り上げている」とあるが、この「上げる」と同じ意味を含む語を、次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 18
ア 釣り上げる イ 取り上げる ウ 差し上げる エ 書き上げる オ 持ち上げる
問3 ② 自然な集積」とあるが、筆者が「自然な」と捉えた理由として、適切でないものを次の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 19
ア 縄文人にとって高樓を建てることは、何世代かにわたり受け継がれてきた技術であつたから
イ 縄文人にとって高樓を建てることは、生活の中で身につけてきた技術であつたから
ウ 縄文人にとって高樓を建てることは、たやすく効率的の良い技術であつたから
エ 縄文人にとって高樓を建てることは、周囲の大人を見て学んだ技術であつたから
オ 縄文人にとって高樓を建てることは、行為として学びなじんだ技術であつたから

問 4 空欄 A にはいる語句として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 20

ア 淘汰に向き合った イ 淘汰に耐えた ウ 淘汰を拒んだ エ 淘汰を望んだ オ 淘汰で培った

問 5 その欣喜は、「欣喜の記憶」として保存しておいても「欣喜」とは別のものではないとあるが、この理由の説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 21

ア 欣喜の記憶は（技の記憶）とは異なるものだから
イ 同じような別の欣喜を、何度でも味わえるから
ウ 記憶となった時点でその場から切り離されるから
エ 記憶されたものは内容とともに変質するから
オ 欣喜の記憶はその場でしか起こらないものだから

問 6 文字が発明された^④ について、次の(1)～(2)の問いに答えなさい。

(1) 本文の論旨において、文字がもたらした影響として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 22

ア 記録に残すことで、確認することが可能になった
イ その時・その場にはいない者とも現場の情報を共有することが可能になった
ウ 経験や感覚でしかなかったものを表現化することが可能になった
エ (非宣言的記憶)を(宣言的記憶)に変換することが可能になった
オ (非宣言的記憶)を言葉でトレースし、説明することが可能になった

(2) 文字が発明されたことによって、失われたものはどのようなものか、本文中の語句を用いて、三十五字以内で具体的に説明しなさい。解答番号は 23

問 7 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 24～28

24 (非宣言的記憶)と呼ばれる(技の記憶)には、(条件反射)や(フライミング記憶)も含まれる
25 「徒弟制」はかつては合理的な伝達方法であったが、現代ではその価値がなくなってしまった
26 細文人の土木建築技術は、無文字社会における(技の記憶)の実例として位置づけることができる
27 無文字社会では言葉で伝えることができなかつたため、効率の悪い方法で技術の継承がなされた
28 文字社会への移行により(非宣言的記憶)は失われ、(宣言的記憶)のみが残る結果となった

第三問 次の傍線部のカタカナを漢字に書き改めなさい。解答番号 29～33

29 ハンザツな作業をやり遂げる
30 個人のサイリヨウに委ねる
31 カンキウを付けた演奏をする
32 ジャツカン疑問が残る
33 野山で花をツむ